

アレルギー・がんテーマ 最新治療法を紹介

徳島大でフォーラム



アレルギー性鼻炎の治療について話す
北村医師―徳島市の徳島大塚講堂

アレルギーとがんをテーマに最新の治療法などを紹介する「徳島大学病院フォーラム2021春(同病院主催、徳島新聞社など共催)」が28日、徳島市の徳島大

塚講堂であり、同病院の医師9人が講演した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため無観客で行った。

2部構成で実施。1部はアレルギー疾患を題材に4人が登壇した。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の北村嘉章副診療科長は、アレルギー性鼻炎の治療方法として、原因となるアレルギーを舌の下から少しずつ体内に取り入れて体を慣らし、症状を和らげたり治したりする舌下免疫療法を紹介した。

2部では小児(0歳〜中学3年)とAYA世代(高

校1年〜39歳の思春期・若年成人)のがんに関して5人が講演。小児科の渡邊浩良診療科長は、AYA世代のがん医療の課題と対策について「個々の患者の状況に合わせたニーズに対応するため、診療や支援の体制整備が必要だ」と指摘した。

講演の様子は4月以降、県内16ケーブルテレビ局でつくる共同チャンネル「けーぶる12」などで放送する。

3月28日付朝刊の特集面で詳細を掲載します。

(若武)